

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	物理	4	3	理系物理選択者

使用教科書	副教材等
「物理」 数研出版	「フォトサイエンス物理図録」 数研出版 「リードα 物理・物理基礎」 数研出版

科目の目標
<p>物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	物理に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
② 思考・判断・表現	身の回りにある物理的現象の中に問題を発見し、論理的に探究する過程を通して考察し、考えを的確に表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理の事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的態度を身につけている。
評価方法	
定期テスト、課題への取り組み、提出物（演習問題、レポート等） 学習に取り組む姿勢、実験・観察への取り組み	

学習計画						
月	【单元名】	【項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	波	波の伝わり方	波と媒質の運動について理解している。 正弦波の式を理解し、自ら書くことができる。 条件による波の伝わり方を説明できる。		○	○
		音の伝わり方	音の伝わり方のしくみや違いを説明できる。		○	○
		音のドップラー効果	ドップラー効果の原理について理解している。 ドップラー効果の計算ができています。	○	○	○
		光	光の性質について理解している。 レンズと鏡による光のふるまいを説明できる。 屈折の法則と干渉の原理を理解し応用できる。	○	○	○
7	電気と磁気	電場	電場と電位の概念を理解し、場に応じて応用できる。 コンデンサーのしくみを理解している。	○	○	○
9		電流	オームの法則を理解し、説明できる。 キルヒホッフの法則を中心に回路の問題が解ける。	○		○
10		電流と磁場	電流の作る磁場について理解している。 ローレンツ力による荷電粒子の運動が説明できる。	○	○	○
11		電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則や自己誘導と相互誘導について理解している。 交流回路と電磁波について理解している。	○	○	○
12	原子と原子核	電子と光	電子、光、X線について理解している。 光の波と粒子の二重性を説明できる。	○		○
1		原子と原子核	原子核についてボーア理論を用いて説明できる。 質量欠損と核エネルギーについて理解している。	○		○
	物理学が築く未来	探究活動	物理学の成果が様々な分野で利用され、未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを理解している。		○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	物理演習	2	3	理系物理選択者

使用教科書	副教材等
「物理」数研出版	「共通テスト対策物理 チェック&演習」数研出版 「リードα 物理・物理基礎」数研出版

科目の目標
日常生活や社会との関係を図りながら物理現象への興味・関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い物理学的に探求する能力と態度を育てる。演習を通して、基本から応用的な概念や原理・法則の理解を深め、自然科学の見方や考え方を育成する。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	物理に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
② 思考・判断・表現	身の回りにおける物理的現象の中に問題を発見し、論理的に探究する過程を通して考察し、考えを的確に表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理の事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的態度を身につけている。
評価方法	
定期テスト、課題への取り組み、提出物（演習問題、レポート等） 学習に取り組む姿勢	

学習計画						
月	【单元名】	【項目】	单元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	力学	平面内の運動	運動を数式で記述する方法に習熟する。	○		○
		剛体	力のモーメントを理解し、剛体の扱いに慣れる。	○		○
5		運動量の保存	運動量保存則の適用範囲を知る。	○	○	○
6		円運動と万有引力	円運動を理解し、運動の分析を学ぶ。	○	○	○
7	熱と気体	気体のエネルギーと状態変化	状態変化による特徴を理解する。	○	○	○
9	波	波の伝わり方	正弦波の式の意味を知る。	○	○	○
		音の伝わり方	物理基礎の復習をする。	○		○
		光	幾何光学に慣れ、干渉現象を扱えるようになる。	○	○	○
10	電気と磁気	電場	電場や電位の概念を理解する。	○	○	○
		電流	回路の問題が解ける。	○		○
11		電流と磁場	電流の作る磁場を理解する。	○		○
		電磁誘導と電磁波	電磁誘導を理解する。交流回路が解ける。	○	○	○
12	原子	電子と光	物理の歴史に触れる。	○		○
1		原子と原子核	ボーアモデルを理解する。核反応と放射線を知る。	○		○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	化学	4	3	理系

使用教科書	副教材等
「新編化学」 (数研出版)	「セミナー化学基礎+化学」 (第一学習社) 「ニューステージ化学図表」 (浜島書店)

科目の目標
<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	化学的な事物・現象に関する概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	化学的な事物、現象から問題を見だし、見通しをもって実験、観察などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物、現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法
小テスト、定期テスト、実験レポート、ワークシートやその他提出物等

学習計画				評価の観点		
月	【单元名】	【使用教科書項目】	单元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4	物質の変化	化学反応の速さとしくみ	化学反応の速さをどのように表現するか理解し、化学反応のしくみをミクロの視点で表現する。	○		○
		化学平衡	様々な可逆反応の平衡状態について、平衡定数を用いて量の関係を示すことができる。		○	○
6	無機物質	非金属元素	非金属元素の単体や化合物の特徴を、周期表での位置に着目してまとめ、反応を化学反応式で表現することができる。	○		○
		金属元素－典型元素－	典型金属元素の単体や化合物の特徴を、反応性やイオン化傾向と結びつけて理解することができる。	○		○
7		金属元素－遷移元素－	遷移元素の単体や化合物の特徴を、実験を通して理解し、錯イオンを用いて表現することができる。	○		○
9	有機化合物	有機化合物の分類と分析	有機化合物の分析法について理解し、有機化合物を様々な分類法で表現できる。	○		○
		脂肪族炭化水素	アルカン、アルケン、アルキン等の脂肪族炭化水素の性質と反応を、構造式を用いて表現することができる。		○	○
		アルコールと関連化合物	アルコールとアルコールから生成する様々な物質の性質や反応を、官能基を用いて分類し、表現することができる。		○	○
10		芳香族化合物	芳香族化合物の性質や反応を、官能基の特徴と結びつけて理解することができる。実験を通して、有機化合物の反応を理解することができる。		○	○
		高分子化合物	高分子化合物の性質と特徴を、重合方法や性質の違いとともにまとめて表現することができる。	○		○
11		天然高分子化合物	糖類、アミノ酸とタンパク質、核酸について、構造とともに生体内での反応にも注目して、表現することができる。		○	○
		合成高分子化合物	合成繊維や合成樹脂、ゴムについて構造の特徴と性質をまとめ、日常生活との関りについて興味をもって調べることができる。		○	○
12		有機高分子化合物	合成繊維や合成樹脂、ゴムについて構造の特徴と性質をまとめ、日常生活との関りについて興味をもって調べることができる。		○	○
		化学とともに歩む	化学が果たしてきた役割として、無機物質、有機化合物及び高分子化合物がそれぞれの特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解している。		○	○
		化学が築く未来	化学の成果が様々な分野で利用され、未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを理解している。		○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	化学基礎・化学演習	3	3	理系

使用教科書	副教材等
「新編化学基礎」(数研出版) 「新編化学」(数研出版)	「チェック&演習 化学」(数研出版) 「ニューステージ化学図表」(浜島書店)

科目の目標
<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	化学的な事物・現象に関する概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	化学的な事物、現象から問題を見だし、見通しをもって実験、観察などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物、現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
小テスト、定期テスト、実験レポート、ワークシートやその他提出物等	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	化学基礎分野	物質の構成と化学結合	物質やそれを構成する粒子の特徴と、結合の仕方について分類して整理することができる。	○		○
		物質の変化	物質と化学反応式について理解する。化学反応を酸塩基反応と酸化還元反応に分類し、それぞれの特徴を理解する。		○	○
6	化学分野	物質の状態	三態の変化を粒子の特徴で分類する。気体の法則や、溶液の性質について実験を通して深く理解する。	○		○
		物質の変化	化学反応とエネルギーの関係を理解する。化学反応の仕組みを理解し、様々な化学平衡の状態について演習を通して理解する。		○	○
9		無機物質	無機物質の特徴と反応を、周期表での位置関係を踏まえて理解し、実験を通して整理することができる。	○		○
10		有機化合物	有機化合物の性質と反応を、炭化水素の性質や官能基の性質ごとに分類し、実験を通して整理することができる。		○	○
11		高分子化合物	天然高分子化合物と合成高分子化合物について、日常生活と関連づけて理解することができる。	○		○
12	共通テスト演習		共通テスト対策の演習を行い、論理的な思考力を養う。		○	

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	化学基礎演習	2	3	文系

使用教科書	副教材等
新編 化学基礎(数研出版)	チェック&演習 化学基礎(数研出版) ビーライン 化学基礎(第一学習社)

科目の目標
<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	観察、実験などを通して、化学の原理・法則を見いだすとともに、基本的な概念を身につけ、科学的に探究しようとする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	身近な物質とその変化の中から問題を見いだし、探究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする。
評価方法	
小テスト、定期テスト、実験レポート、ワークシート、授業に取り組む姿勢	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	物質の構成と化学結合	物質の構成	物質の分類や物質の三態、分子の熱運動について理解する。	○		○
5		物質の構成粒子	原子やイオンとその構造を理解し、周期表を用いて元素を分類できる。	○		○
6 7		粒子の結合	物質の性質を粒子の結合方法で分類し整理することができる。	○		○
9	物質の変化	物質と化学反応式	物質による量の表し方を理解し、化学反応の量的関係を物質を用いて判断することができる。		○	○
10		酸と塩基の反応	酸と塩基の性質、pH、中和反応、塩の分類について理解する。		○	○
11		酸化還元反応	酸化還元反応を電子の授受によってあらわすことができる。酸化還元反応を用いた電池の構造を理解する。		○	○
12 1	共通テスト演習		共通テスト対策の演習を行い、論理的な思考力を養う。	○	○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物演習	2	3	理系（選択者）

使用教科書	副教材等
「生物」（数研出版）	「チェック&演習 生物」（数研出版） 「フォトサイエンス 生物図録」（数研出版）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
小テスト、定期テスト、ワークシート、調べ学習、授業に取り組む姿勢	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	生命現象と物質	細胞と分子	生体物質と細胞、生命現象とタンパク質について理解している。	○		○
		代謝	呼吸、光合成について、エネルギーの流れと関連付けて理解している。		○	○
6	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報の発現と発生	DNAの複製の仕組みと、遺伝子の発現の仕組みを理解している。	○		○
			遺伝子の発現調節、発生と遺伝子発現について理解している。		○	○
			遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解している。	○		○
9	生物の環境応答	動物の反応と行動	刺激の受容と反応、動物の行動について理解している。	○		○
		植物の環境応答	植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見だして理解している。		○	○
10	生態と環境	生物群集と生態系	個体群、生物群集について理解している。	○		○
			生態系の物質生産と物質循環、生態系と人間生活について理解するとともに、自然環境の保全に寄与する態度を身につけている。		○	○
11	生物の進化	生物の進化	生命の起源に関する考えを理解するとともに、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。	○		○
			遺伝子の変化、遺伝子の組合せの変化、進化の仕組みについて理解している。		○	○
			生物の系統と進化、人類の系統と進化について理解している。	○		○
12				○		○
1	共通テスト演習		共通テスト対策の演習を行い、論理的な思考力が養われている。	○	○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物基礎演習	2	3	文系（選択者）

使用教科書	副教材等
「高等学校 生物基礎」（第一学習社）	「チェック&演習 生物基礎」（数研出版）

科目の目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
小テスト、定期テスト、ワークシート、調べ学習、授業に取り組む姿勢	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	生物の特徴	生物の共通性	生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解している。		○	○
		生物とエネルギー	光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解している。	○		○
6	遺伝子とそれはたらき	遺伝子の本体と構造	塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解している。		○	○
		遺伝情報とタンパク質	DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見い出して理解している。	○	○	○
9	ヒトのからだの調節	情報の伝達と体内環境の維持	体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見い出して理解している。		○	○
		免疫	ホルモンと自律神経の働きによって体内環境が維持されていることについて理解している。	○		○
11	生物の多様性と生態系	植生と遷移	植生の遷移をバイオームと関連付けて理解している。			
		バイオーム			○	○
12	生態系とその保全	生態系と生物の多様性	生物の種多様性と生物間の関係性を関連付けて理解している。	○		○
		生態系のバランスと保全	生態系の保全の重要性を認識している。		○	○
1	共通テスト演習		共通テスト対策の演習を行い、論理的な思考力が養われている。	○	○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物	4	3	文系（選択者）

使用教科書	副教材等
「生物」（数研出版）	「フォトサイエンス 生物図録」（数研出版） 「リードα 生物」（数研出版）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 および 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、ワークシート、ポートフォリオやその他提出物等)	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	遺伝情報の発現と発生	DNAの構造と複製	DNAの構造と複製のしくみを理解している。	○		○
5		遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節	資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみとその調節をタンパク質に関連付けて表現できている。		○	○
		発生と遺伝子発現	発生の過程とともに、その過程における細胞の分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。	○		○
		遺伝子を扱う技術	遺伝子を扱う技術の原理と有用性を理解している。	○		○
6	動物の反応と行動	刺激の受容	外界からの刺激の受容について、関与する器官と細胞の特性と関連付けて説明できている。		○	○
7		ニューロンとその興奮情報の統合	神経細胞と神経系の構造とともに、脳や脊髄での情報の統合や処理のしくみについて理解している。	○		○
		刺激への反応 動物の行動	効果器としての筋肉の構造を理解し、動物の行動と神経系のはたらきを関連付けている。		○	○
9	植物の環境応答	植物の生活と植物ホルモン	植物の成長や反応に植物ホルモンが関わっていることを理解している。	○		○
10		成長、分化の調節 環境への応答	資料に基づいて、植物の成長や花芽形成における光との関わりを説明できている。		○	○
		配偶子形成と受精	植物の配偶子形成と受精を理解するとともに、動物と比較して共通点、相違点を説明できている。		○	○
11	生物群集と生態系	個体群の構造と性質 個体群内の関係	個体群内の相互作用を理解し、個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を見だして表現できている。		○	○
12		異なる個体群間の関係	個体群間の相互作用について、生物群集が維持されるしくみや個体群間の関連性を理解している。	○		○
		生態系と物質循環	生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環を理解している。	○		○
1	問題演習		問題演習をとおして、生物全般を関連付けて理解し、論理的に表現できている。	○	○	○

令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物	4	3	理系（選択者）

使用教科書	副教材等
「生物」（数研出版）	「フォトサイエンス 生物図録」（数研出版） 「リードα 生物」（数研出版）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 および 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、ワークシート、ポートフォリオやその他提出物等)	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	遺伝情報の発現と発生	DNAの構造と複製	DNAの構造と複製のしくみを理解している。	○		○
		遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節	資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみとその調節をタンパク質に関連付けて表現できている。		○	○
		発生と遺伝子発現	発生の過程とともに、その過程における細胞の分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。	○		○
		遺伝子を扱う技術	遺伝子を扱う技術の原理と有用性を理解している。	○		○
6 7	動物の反応と行動	刺激の受容	外界からの刺激の受容について、関与する器官と細胞の特性と関連付けて説明できている。		○	○
		ニューロンとその興奮情報の統合	神経細胞と神経系の構造とともに、脳や脊髄での情報の統合や処理のしくみについて理解している。	○		○
		刺激への反応 動物の行動	効果器としての筋肉の構造を理解し、動物の行動と神経系のはたらきを関連付けている。		○	○
9 10	植物の環境応答	植物の生活と植物ホルモン	植物の成長や反応に植物ホルモンが関わっていることを理解している。	○		○
		成長、分化の調節 環境への応答	資料に基づいて、植物の成長や花芽形成における光との関わりを説明できている。		○	○
		配偶子形成と受精	植物の配偶子形成と受精を理解するとともに、動物と比較して共通点、相違点を説明できている。		○	○
11	生物群集と生態系	個体群の構造と性質 個体群内の関係	個体群内の相互作用を理解し、個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を見だして表現できている。		○	○
		異なる個体群間の関係	個体群間の相互作用について、生物群集が維持されるしくみや個体群間の関連性を理解している。	○		○
		生態系と物質循環	生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環を理解している。	○		○
12		生態系と人間生活	資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見だして表現できている。		○	○
1	問題演習		問題演習をとおして、生物全般を関連付けて理解し、論理的に表現できている。	○	○	○